

地域公共交通調査事業に関する評価の 添付資料

令和8年1月

南城市地域公共交通会議

1 業務の概要

本調査事業では、昨年度実施した調査結果に加え、今年度実施した乗降調査や地域や交通事業者との意見交換結果をもとに、地域公共交通計画の策定を目的に実施した。

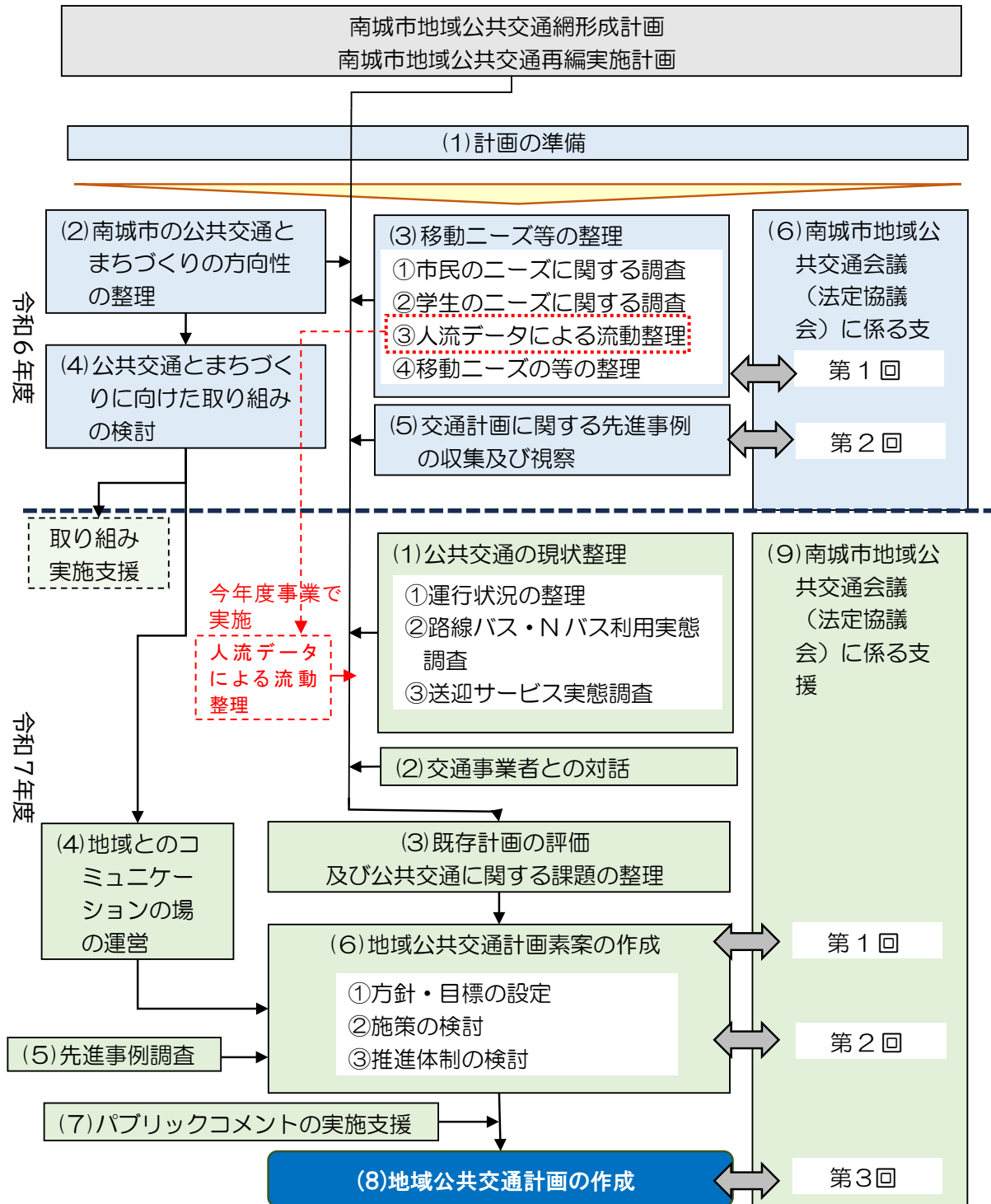


図-1. 業務実施フロー

2 公共交通の現状整理

交通計画策定にあたっての基礎データとして、既存資料をもとに地域の現状、公共交通の現状について整理した。

2.1 地域の現状整理

■地域の現状の概要

項目	内容
人口	<ul style="list-style-type: none">●令和 7 年 10 月末時における人口は、約 47,000 人で、増加傾向で推移しており、大里地域の北部では、過去 5 年間で 40%以上増加している地区もみられる。一方、玉城地域や知念地域では 20%以上減少している地区もみられ、那覇市に近いエリアで人口増加、離れたエリアで人口減少が進んでいる。●令和 2 年度国勢調査における高齢化率は 25.9%です。高齢化は徐々に進み、令和 12 年度には 28.9%に達すると推計されている。
施設立地	<ul style="list-style-type: none">●公共施設は、市の各地域に分散して立地している。●商業施設、医療施設は佐敷地域、大里地域に多く集まっている。●観光資源は、世界遺産の斎場御嶽や、おきなわワールドなどを中心に、市の南部に多く分布している。
プロジェクト等	<ul style="list-style-type: none">●つきしろ IC 周辺で土地区画整理事業が進められており、農畜水産物のマーケットや、宿泊施設等を備えた「NOLL(ノウル)南城」や商業施設、住宅等の整備が計画されている。●市役所周辺では、医療・福祉系の土地利用の転換が検討されている。●市役所に隣接する敷地で、図書館やサークル活動や子どもの遊び場等を備えた複合施設の整備が進められている。●那覇空港自動車道に接続し、本市と那覇市や那覇空港、中北部を連絡する地域高規格道路「南部東道路」の整備が進められている。

2.2 公共交通の現状整理

■公共交通の現状の概要

項目	内容
公共交通ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ●南城市の公共交通ネットワークは、路線バス、Nバス、おでかけなんじい、タクシー、航路で構成されています。本計画における「幹線バス」は路線バス、「支線バス(市内線バス)」はNバス、「デマンド交通」はおでかけなんじいをさします。 ●南城市役所を中心に、路線バス、Nバスのネットワークが形成されています。 ●市外への移動は路線バスが、市内の移動は主にNバスが担い、路線バス、Nバスで対応できない地域や時間帯をおでかけなんじいや、より利便性が高いタクシーが補完しています。 ●安座真港と徳仁港を結ぶ航路は、久高島を連絡する唯一の公共交通です。
公共交通の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍で、一時的に公共交通の利用者数は減少しましたが、Nバス、おでかけなんじいを合わせた市内を移動する公共交通利用者数は、増加しています。 ●市内における路線バス、Nバスの利用は高校生が多く、おでかけなんじいは主に75歳以上の高齢者が利用しています。
財政負担	<ul style="list-style-type: none"> ●人件費、燃料費の上昇により、Nバス、おでかけなんじいの運営費用、財政負担は増加しています。



図 公共交通ネットワークの現状

2.3 路線バス・Nバスの乗降調査の実施

(1) 乗降調査の実施概要

■乗降調査の実施概要

項目	内容
調査対象	南城市内を走行する路線バス利用者
調査実施方法	路線バスに乗車した調査員が、上りは乗車時に降車予定バス停を、下りは降車時に乗車バス停と、乗車目的の聞き取りを行う。 Nバスについては、調査員が乗車時に降車予定バス停と利用目的の聞き取りを行う。
調査実施時期	平日：令和7年7月8日（火） 休日：令和7年7月6日（日） （補足調査） 平日：令和7年7月16日（水） 休日：令和7年7月13日（日）
主な把握項目	●路線バス・Nバスの乗降区間 ●路線バス・Nバスの乗車目的（通勤、通学、買物、通院、その他） ●利用者の年代（～中学生、高校生、18～29歳、30～49歳、50～64歳、65歳～） ※利用者の年代は調査員が目視で判断

(2) 路線バス乗降調査の結果概要

- 調査日の路線バスの利用者数は、平日が1,122人/日、休日が514人/日であり、休日は平日の半分程度の利用となっている。
- 系統別では、平日は系統309番が188人/日と最も多く、次いで系統51番が172人/日と多い。
- 休日は、系統37番が98人/日と多く、次いで系統51番が76人/日と多い。

■路線バスの乗降者数

系統番号	平日			休日			備考
	上り	下り	計	上り	下り	計	
36	27	55	82	6	6	12	
37	38	63	101	53	45	98	
38	38	4	42	4	6	10	
39	36	41	77	9	15	24	
40	28	19	47	13	12	25	
50	116	36	152	23	33	56	
51	86	86	172	42	34	76	
54	3	11	14	21	-	21	休日下り運行なし
81	7	3	10	-	-	-	休日上下運行なし
82	45	-	45	10	-	10	玉泉洞バス停 下り対象外
83	35	-	35	52	-	52	玉泉洞バス停 下り対象外
191	24	9	33	4	0	4	休日下り乗降なし
391	18	13	31	18	0	18	休日下り乗降なし
309	95	93	188	21	18	39	
338	29	4	33	22	22	44	
339	48	12	60	17	8	25	
計	673	449	1,122	315	199	514	

- 平日は高校生の利用が多いこともあり、通学目的での利用が528人/日と多く、平日の利用者数の47%を占めている。
- 平日は、通学以外では、通勤が250人/日(22%)、観光が157人/日(14%)を占めている。
- 休日は、観光が244人/日(47%)と最も多く、次いで買い物が94人(18%)、その他が82人/日(16%)と多い。その他の内容としては帰宅、知人訪問や、遊び、旅行などの回答が多い。

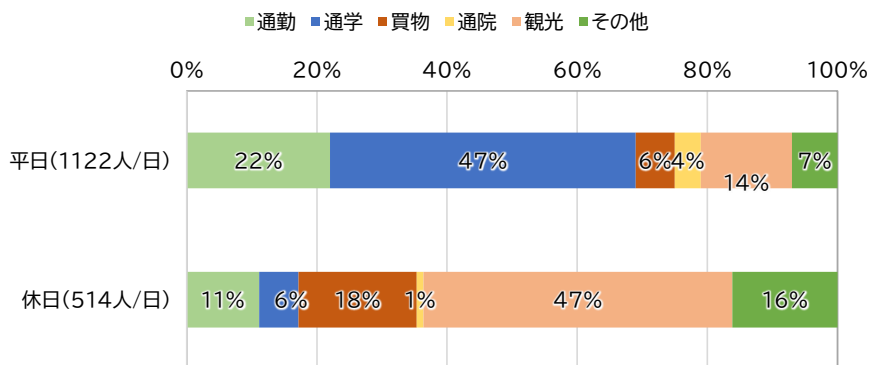


図 路線バスの利用目的

(3) Nバス乗降調査の結果概要

- 調査日のNバスの利用者数は、平日が990人/日、休日が411人/日であり、休日は平日の半分程度の利用となっている。
- 系統別では、A系統が平日320人/日、休日162人/日と多く、全体の約3分の1を占めている。

■Nバスの乗降者数

系統	平日	休日	備考
A1	159	74	
A2	161	88	
B1	135	60	(平日)B1-3・B1-11、(休日)B1-6・B1-9 乗降なし
B2	121	69	
B3	0	-	平日乗降なし・休日運行なし
C1	167	56	
C2	86	64	
D1	18	-	休日運行なし
D2	51	-	休日運行なし
F	46	-	休日運行なし
G	46	-	休日運行なし
計	990	411	

- 平日は高校生の利用が多いこともあり、通学目的での利用が563人/日と多く、平日の利用者数の57%を占めている。
- 平日は、通学以外では、買物が114人/日(15%)、通勤が113人/日(11%)を占めている。
- 休日は、その他が121人/日(29%)と最も多く、その他の内容としては帰宅、知人訪問や、遊び、投票(期日前)などの回答が多い。その他では観光が116人(28%)、買物が109人/日(27%)と多い。

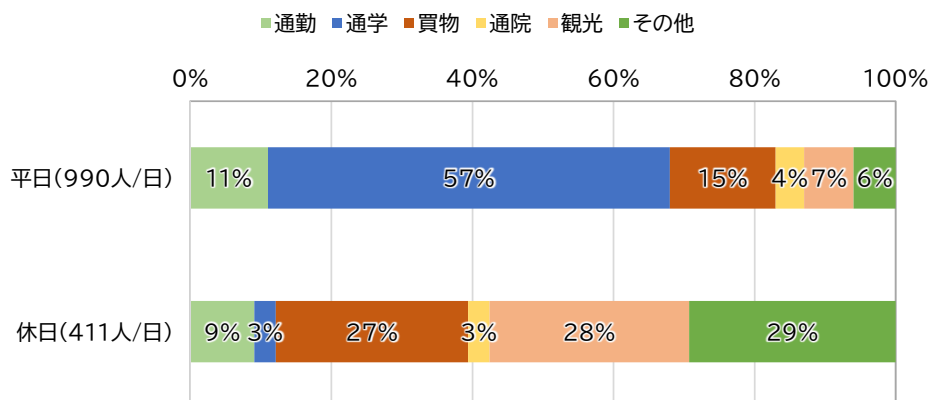


図 Nバスの利用目的

2.4 人流データによる移動ニーズの把握

■人流データ集計区分

項目	区分
データ集計対象	地区間の移動者数
地区区分	南城市内 18 地区、周辺市町村 16 地区
年代区分	39 歳以下、40 歳～59 歳、60 歳以上
居住地	南城市内、その他県内、県外
集計時間	早朝（4～7 時）、朝ピーク（7～9 時）、午前（9～12 時）、午後（12～16 時）、夕ピーク（16～19 時）、夜間（19～22 時）、深夜（22 時～4 時）

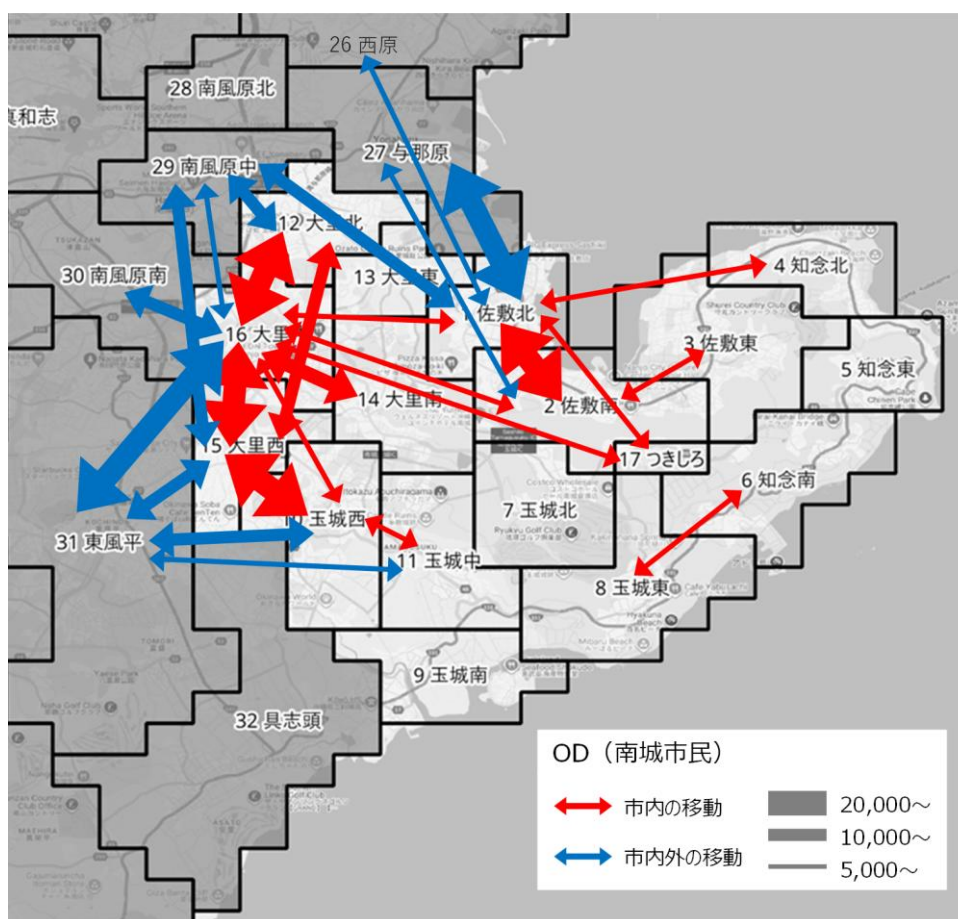


図 データ集計の例（推定南城市居住者の移動実態）

3 交通事業者との座談会の開催

- 地域交通の課題や、取組の具体的な内容、次年度以降の取組推進について、交通事業者の意向を把握し、計画の実現性を高めるため、交通事業者との座談会を実施している。
- 座談会は全体で3回の開催を予定しており、最終の第3回を2月中旬で調整している。

■座談会の実施概要

回数	開催日時	主な議題
第1回	令和7年7月9日(水) 15:00~17:00	<ul style="list-style-type: none">・南城市地域公共交通計画策定について・南城市におけるこれまでの公共交通に関する取組について・南城市の公共交通の現状と課題について
第2回	令和7年10月10日(金) 14:00~16:00	<ul style="list-style-type: none">・南城市の公共交通のSWOT分析・南城市の公共交通の今後の方向性 ※ワークショップ形式で実施
第3回	令和8年2月中旬開催予定	<ul style="list-style-type: none">・地域交通計画の施策概要について・計画の推進体制(マネジメント・モニタリングチーム)について・次年度の取組について

4 地域とのコミュニケーションの場の運営

計画策定にあたり、地域の意向を直接的なコミュニケーションを通じて把握するため、オフ・ハウスとワークショップを開催した。

4.1 オープンハウスの開催

- オープンハウスでは、南城市の公共交通に関する現状や課題、今後の取組方針と具体的な取組について知っていただくため、パネル展示を行った。
- また、移動に関して困っている点や、公共交通に対する要望等を把握するため、聞き取り調査も合わせて実施した。

■オープンハウスの実施スケジュール

回数	開催日時	開催場所
第1回	令和7年8月10日(日) 10:00~16:00	南城市役所 (Nバス祭りの会場で実施)
第2回	令和7年10月11日(土) 10:00~16:00	がんじゅう駅
第3回	令和7年10月26日(日) 10:00~16:00	イオンタウン南城大里
第4回	令和7年11月16日(日) 12:00~17:00	南城市役所 (南城市まつりの会場で実施)

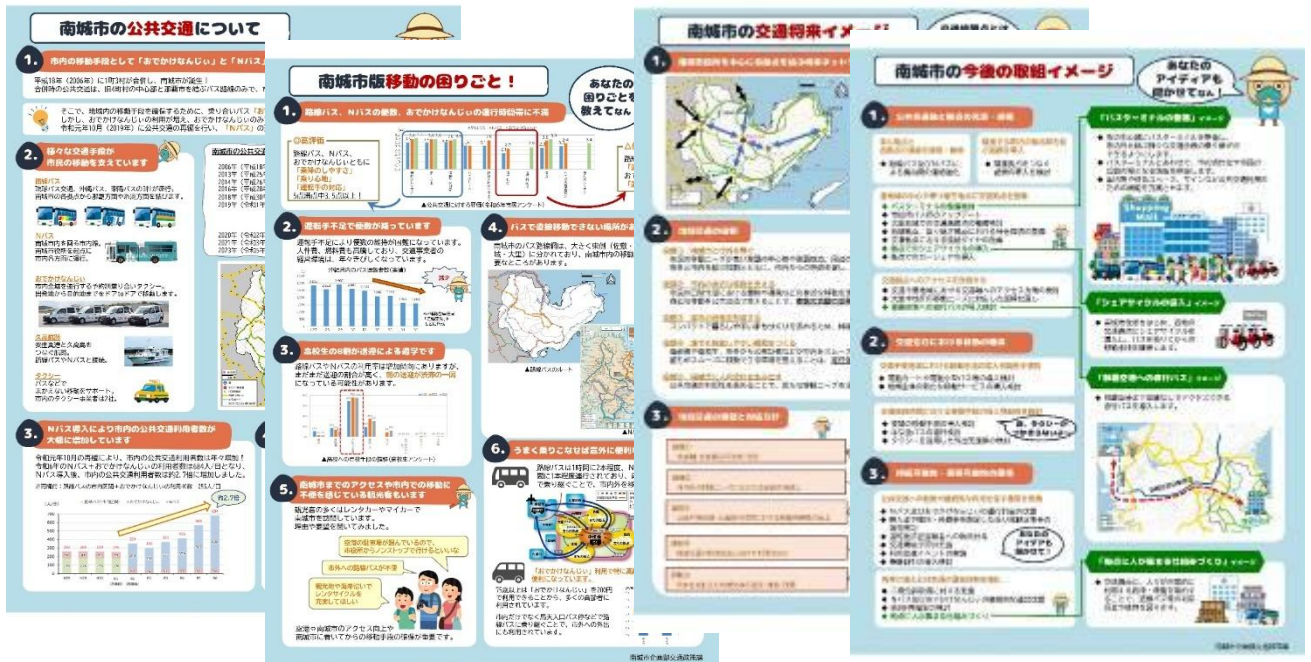


図 オープンハウスでの展示パネル

■オープンハウスでの主な意見

【普段の移動で困っている点・不便な点】

- バス本数が少なく時間が合わない（南城市古堅・高校生/八重瀬町・10代）
- バス停が遠い・混雑で乗れないなど利用しづらい（浦添市・40代/南城市新開・小学生）

【バス路線に関する要望・アイデア】

- 本数増・運行時間延長・エリア拡大など利便性向上を希望（南城市古堅・40代/南城市仲程・70歳以上）
- 病院・商業施設・南部医療センター・空港などへの直行や乗継改善を希望（浦添市・40代/南城市大里・小学生）

【乗り場・案内等に関する要望・アイデア】

- ルート・乗継・時刻が分かりづらく情報不足（南城市平良・20代/南城市船越・40代）
- 乗り方の不安、アプリ情報の古さなどで利用ハードルが高い（与那原町・小1保護者/南城市大里・20代）

【運賃に関する要望・アイデア】

- 運賃への助成があると利用しやすい（八重瀬町・40代）
- 決済手段の多様化や高齢者向け回数券があると安心（北中城村・40代）

【将来の移動に関する不安】

- 免許返納後の移動手段が不安（特に那覇方面）（南城市大城・70歳以上/八重瀬町・60代）
- 子どもの将来の通学や家族の送迎負担への不安（八重瀬町・40代/南城市親慶原・30代）

【那覇空港までの直行バスに関する要望・アイデア】

- 空港直行バスがあれば利用したい（南城市古堅・40代/那覇市・60代）
- P&Rの存在・利用方法が知られていない（周知不足）（南風原町・30代/南城市船越・40代）

【その他】

- イベントや地域情報と組み合わせた公共交通の利用促進（糸満市・30代/南城市大里・40代）
- 生活密着の移動環境改善（自転車道整備・夜バスなど）（南城市大里・20代/南城市親慶原・30代）

4.2 ワークショップの開催

●ワークショップでは、公共交通の必要性、課題、課題解消に向けた取組、取組実施に向けた市民や企業の役割について、3回のワークショップを通じて、段階的に意見交換を行った。

※結果についてはとりまとめ中

■ワークショップの実施スケジュール

回数	開催日時	グループワークのテーマ
第1回	令和7年11月15日(土) 14:00~16:00	<ul style="list-style-type: none"> もし南城市に公共交通がなかったら？ 南城市の公共交通を診断してみよう
第2回	令和7年12月14日(日) 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> よりよい公共交通のための取組を考える
第3回	令和8年1月18日(日) 10:00~12:00	<ul style="list-style-type: none"> 取組の優先順位と具体的な取組の内容を考える 取組を進めるための市民や企業、交通事業者、行政等の役割を考える

■ワークショップの実施内容

回数	テーマ	アウトプット	ワークショップの内容
第1回 (11/15)	交通とまちづくりとの関係について知る	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の役割 交通まちづくりのテーマ 	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップについて説明 南城市と公共交通の現状について説明 グループワーク①「もし南城市に公共交通がなかったら？」 グループワーク②「南城市の公共交通を診断してみよう」
第2回 (12/14)	よりよい公共交通のための取組を考える	<ul style="list-style-type: none"> 改善のための取組メニュー 	<ul style="list-style-type: none"> 前回のワークショップの確認 取組事例の紹介 今回のワーキングについて説明 グループワーク「よりよい公共交通のための取組を考えてみる」
第3回 (1/18)	取組の具体的な内容と今後の進め方考える	<ul style="list-style-type: none"> 取組概要 計画の推進体制 	<ul style="list-style-type: none"> 前回のワークショップの確認 今回のワーキングについて説明 グループワーク①「優先度の高い取組を考える」 グループワーク②「取組の具体的な内容を考える」 グループワーク③「取組の進め方考える」

5 現状診断と課題の把握

5.1 現状診断

以下の5項目について現状診断を行った。

■人口分布とバス路線網

居住人口の分布に対し適切にバス網、バス停が設置されているか。

■施設立地とバス路線網

公共施設や商業施設、医療施設等の外出先となる主な施設に対し、適切にバス網、バス停が設置されているか。

■移動ニーズと運行ルート・運行便数

市内外の移動ニーズに対応したバス網、運行便数となっているか。

■潜在的なニーズと運行ルート・運行便数

将来の開発動向等を踏まえた潜在的な移動ニーズに対応したバス網、運行便数となっているか。

■市外への移動需要と路線バスの運行便数の推移

運転手不足により路線バスの減便が続いているが、移動ニーズをまかなえているのか。

(1) 例1：人口分布とバス路線網

- 多くの人口が居住しているエリアでは、おおむね路線バス又はNバスが運行されている。
- 佐敷地域の新開地区や、大里地域の嶺井地区など250mメッシュ当たり300人以上(1,200人/km²以上)のエリアでも一部運行されていないエリアもある。ただし、おでかけなんじいにより面的にはカバーされている。

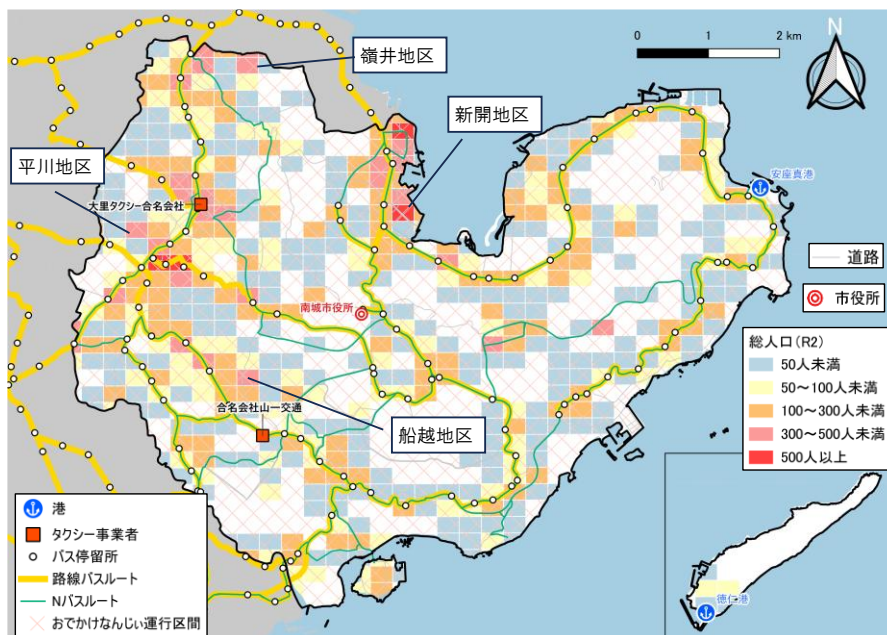


図 人口分布とバス路線網との関係

(2) 例 2 : 施設立地とバス路線網

- バス停からの300m圏域と施設との関係を見ると、施設が集積している佐敷地域や大里地域は、概ねバス停300m圏でカバーされている。
- 知念地域、玉城地域の中心部も同様に、おおむねバス停300m圏に収まっている。

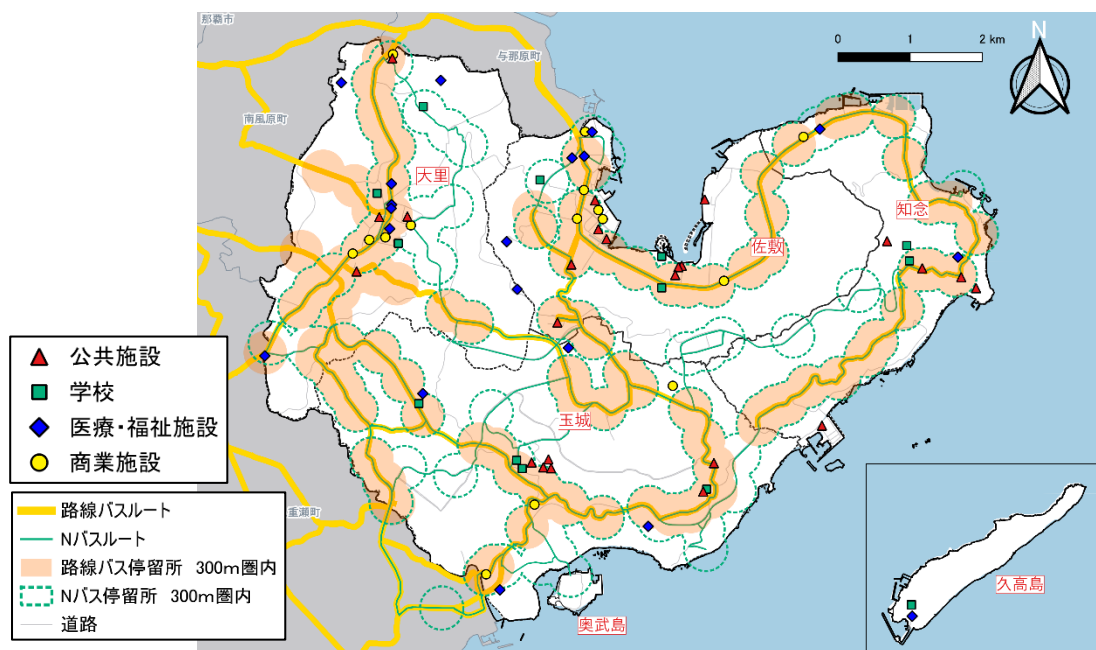




図 施設立地とバス路線網との関係

6 交通計画に関する先進事例の収集及び視察

今年度は山口市、宇部市、糸島市の3市に視察を行った。以下の取組概要の抜粋を示す。





6.1 山口市の取組概要

- 山口市の公共交通は、多核分散型都市という特性を踏まえ、「安心してクルマに頼り過ぎない」交通まちづくりを目指し、行政・市民・事業者ら多様な主体が連携しながらスマート技術や地域密着型施策を進めている。

<p>●地域住民主体で運行しているコミュニティタクシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通不便地域における買い物や通院などの移動手段を確保するため、市内8地域の住民が自ら主体となって「コミュニティタクシー」を運行 ・平成19年12月25日に運行を開始した小郡地域「サルビア号」を皮切りに順次運行が開始され、現在は8地域で運行。 ・地域住民が年に何度も会議を開催し、車両に乗り込みヒアリング調査をしながら、利用しやすい経路・ダイヤへと改善されている。 	
<p>●スマート空港タクシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口市と山口宇部空港を結ぶ乗合タクシー。乗り換えなしで移動が可能。 ・山口市中心部から山口宇部空港まで、ドアtoドアで移動でき、通常料金よりも低価格で利用できる。 ・予約は出発の3時間前まで可能。 	
<p>●高齢者の外出支援（グループタクシー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の外出を支援するため、グループタクシー利用券を交付。 ・公共交通機関の利用が不便な地域に住む65歳以上の高齢者を対象に、タクシーを共同で利用する際に運賃の一部を助成するもの。相乗りすることで、よりお得にタクシーを利用できる。 ■グループタクシー利用券について ・対象者:65歳以上で、自宅から最寄りの駅やバス停まで一定距離以上離れている方 ・利用方法:グループでタクシーを相乗りする際に、利用券を1人1枚使用できる。利用券1枚は200円。年間交付枚数60枚(1冊) ・目的:高齢者の外出機会を増やし、健康維持や地域コミュニティの活性化を目的とする。 	 <p>グループタクシーの利用の仕方</p> <p>例えば… 300円の利用券をお持ちの方が、ご自宅からスーパーまでの3kmをタクシーでお出かけする場合、タクシー料金は1,110円(小型)になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆1人で利用した場合 1枚しか利用できないため、残り810円は現金で支払います。 ◆300円の利用券をお持ちの方が3名で相乗りした場合 1人1枚ずつ利用して合計900円分利用できるため、残り210円、210円を3人で割ると、1人70円。 グループで乗ればお得です! 

6.2 宇部市の取組概要

- 宇部市の公共交通は、「市民の足を守る持続可能な仕組みづくり」を基本方針とし、地域に合った交通体系の再構築と、利便性の向上を目指した取り組みが特徴である。

<p>●サバスク定期券</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇部市営バス全路線（特急含む）乗り放題のICカード定期券（ICOCA 限定） ・通常タイプ（サバスク）：誰でも購入可能、全日利用可 ・曜日指定タイプ（サバスクmini）：任意の曜日1日だけ乗り放題 ・学割タイプ（サバスク学割）：学生限定、購入時に学生証などが必要 	
<p>●「公共交通すごろく YAMAGUCHI」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口大学・宇部市・山口市が連携し、公共交通の利用促進と地域の魅力発見を目的とした「すごろく型移動体験イベント」を3年間で6回開催 ・実際に公共交通機関に乗ってサイコロを振り、目的地を目指すゲーム形式 ・地方交通の課題（待ち時間・本数の少なさなど）を逆手に取り、フォトコンテストなどの仕掛けでゲーム性を高めた ・地元店舗・団体と連携し、参加者に特典やノベルティを提供 ・この取組が評価され、**第14回 EST 交通環境大賞「奨励賞」**を受賞（2024年5月） 	
<p>●免許返納者への「お試し無料乗車券」配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年5月1日より、宇部警察署で運転免許証の自主返納手続きをされた方に対し、市内の地域内交通（コミュニティタクシー、デマンドバス）で利用可能な「お試し無料乗車券（2枚）」の配布を開始。 	
<p>●地域住民との協働による駅舎アート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草江駅の駅舎アートは、2017年に地域活性化を目的として実施されたプロジェクト。 ・JR西日本や宇部市、地元住民が協力し、イラストレーター郷さとこ氏が中心となって制作。 ・駅舎には宇部地域の動植物や名所をモチーフにした線画が描かれ、地元中学生や住民も制作に参加。 ・明るく親しみやすいデザインで、地域の魅力を発信するランドマークとなっている。 	

6.3 うべ交通まちづくり市民会議(愛称:うべこまち)

- 「うべこまち」は、2010年に山口県宇部市で発足した交通まちづくり市民会議の愛称。
- 市の交通担当課との連携をきっかけに、「交通まちづくり」をテーマとしたワークショップ参加者が中心となって設立された。
- 活動の中心テーマは「自転車」。自転車専用レーンの整備や自転車活用計画の策定(2020年)、子どもたちへのマナー啓発活動など、自転車を通じた持続可能なまちづくりを目指す。
- 発足当初は大学生も多く関わり、研究や卒論とも連動しながら活動を展開。現在は少人数ながらも、補助事業等を活用し、地域に根ざした活動を継続している。

●自転車活用計画の策定(2020年)	
・宇部市自転車活用計画の策定に関与	
●うべ自転車レーン安全走行マップ、自転車利用啓発冊子の作成	
・学校や地域のワークショップと連携し、自転車の利用の安全啓発を強化。	 
●自転車通学路点検ワークショップ	
<ul style="list-style-type: none"> ・宇部市厚南中学校の生徒参加による自転車通学路点検とマップづくりワークショップを実施(2024年7~8月) ・参加者: 生徒11名、教諭、宇部市道路整備課、山口県警、宇部警察署 ・通学路を実際に自転車で走りながら安全状況を点検・評価。地図上で課題を共有し、改善案をまとめる活動を継続 	 
●自転車交通安全国際会議に参加・発表(2024年11月)	
<ul style="list-style-type: none"> ・愛媛県今治市で開催 ・宇部市の自転車ネットワーク計画とうべこまちの自転車WS活動について発表 	

6.4 糸島市

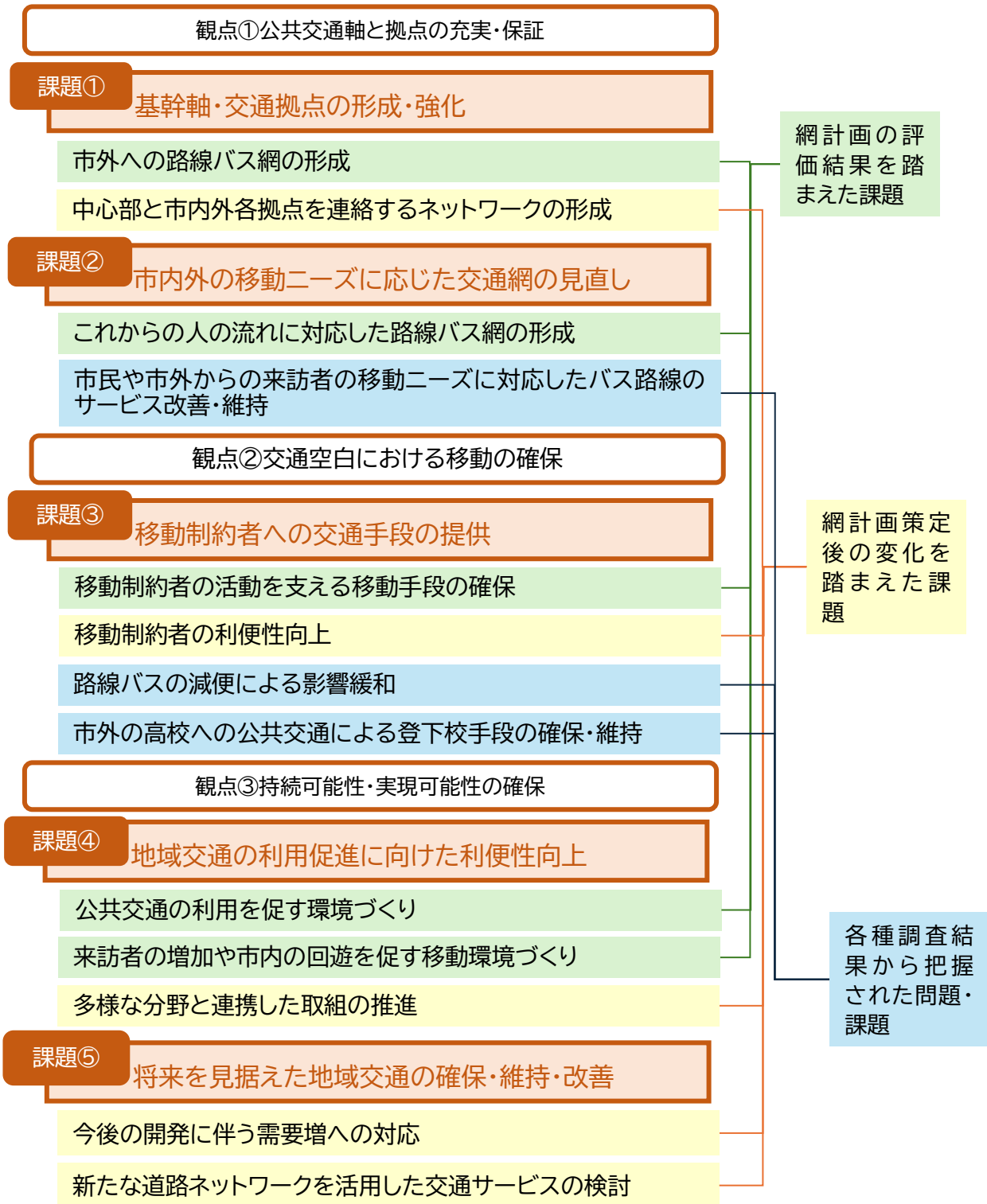
- 糸島市の公共交通・モビリティ施策は、観光振興や地域住民の移動支援を目的に、MaaS導入・二次交通改善・コミュニティ交通強化を軸に先進的な取り組みが進んでいる。
- よかまちみらいプロジェクト
 - ・福岡県糸島市を中心に展開されている地域活性化と移動手手段の多様化を目指す取り組み。昭和グループを中心に、地元自治体や企業、大学などが連携し、地域の交通課題の解決と持続可能なまちづくりを推進している。
 - ・このプロジェクトは、糸島半島の観光資源を活かし、地域の魅力向上と活性化を目指している。九州大学との産学連携を通じて、先進技術の研究・実証も推進されており、持続可能なまちづくりに貢献している。

<p>●オンデマンドバス「チョイソコよかまちみらい号」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年3月より糸島市南部地域で運行開始し、随時エリア拡大し運行をしている。 ・利用には会員登録の上、予約が必要【ハイエース】(定員：8名)5台運行【乗車運賃】200円/1乗車【支払方法】現金、PayPay、回数券、乗車券、定期券【利用方法】 ・登録すれば運行エリア外の方でも、市内在住者以外の方も利用可能 	 
<p>●超小型EVカーシェア「C+pod」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の交通課題や観光振興に対応するため、2人乗りの超小型EV「C+pod」を活用したカーシェア事業を2021年導入 ・市内3か所にステーションを設け、スマホアプリで簡単に予約・利用が可能 ・地元小学生や大学との協働による車両デザインや、観光案内ナビ搭載車の導入など、地域と連携した取り組みも進められている。 	
<p>●レンタサイクル「よかチャリ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤマハの電動アシスト付自転車を使用 ・満充電で約50kmのアシストが可能で、坂道の多い糸島半島でも快適に移動をサポート ・電動アシスト・クロスバイクを観光協会等で貸出、学生や観光客に対応。さらにe-Bike導入でアクティブツーリズムを後押し。 ・学生の通学、観光客の瀬戸内海沿い巡りなど、多様な用途で活用が進む。 	

7 南城市地域公共交通計画(素案)の作成

計画素案は、現在作成中であるため、ここでは、現時点における「課題」、「基本理念と方針」、「施策メニュー」を示す。

7.1 課題の整理



課題①:交通軸・交通拠点の形成・強化

- 南城市都市計画マスタープランに示された将来都市像の実現に向け、市中央部の先導的都市拠点（新たな賑わい創出や都市づくり全体を先導する重要な拠点）と、佐敷、知念、玉城、大里の4つの拠点を連絡する軸の形成と、各拠点における交通結節機能の強化が必要です。

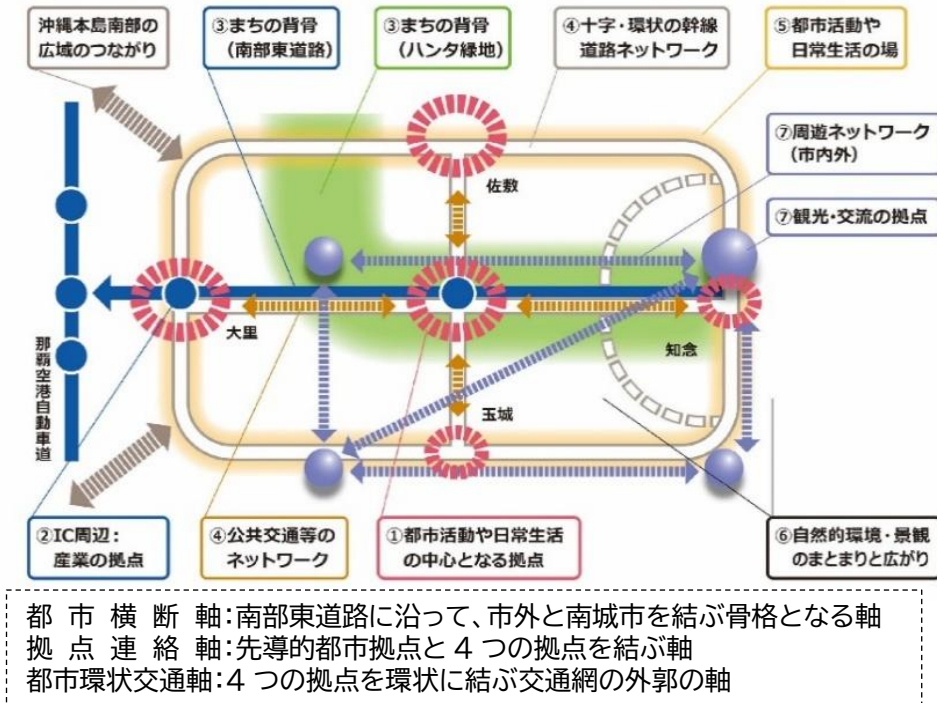


図 都市計画マスタープランにおける将来都市像

- 人流データより、南城市の推定居住者の移動状況を見ると、市内では、佐敷や大里地域、市外へは、佐敷地域と与那原町や、大里地域から八重瀬町への移動が多くなっており、流動に応じた交通軸や交通拠点の整備が求められます。

【使用データ「混雑統計®」について】
 「混雑統計®」データは、NTTドコモが提供するアプリケーションの利用者より、許諾を得た上で送信される携帯電話の位置情報を、NTTドコモが総体的かつ統計的に加工を行ったデータ。
 位置情報は最短5分毎に測位されるGPSデータ（緯度経度情報）であり、個人を特定する情報は含まれない。

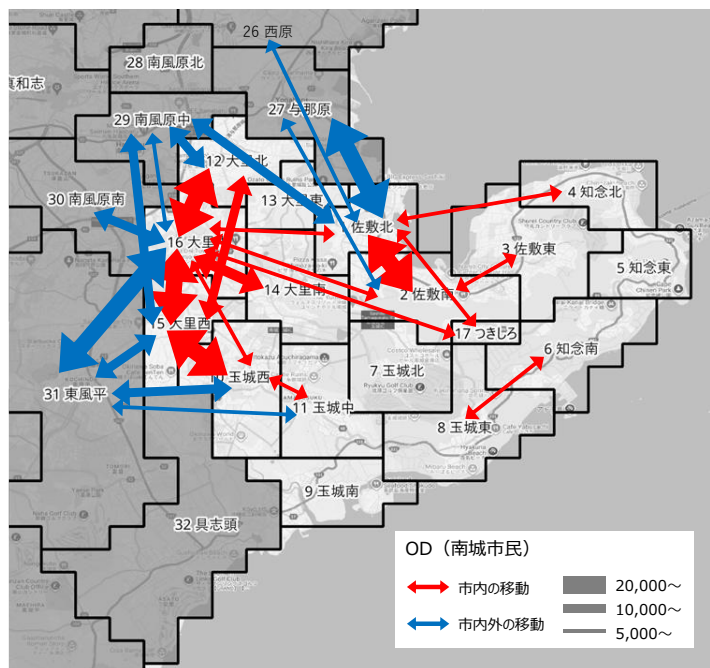


図 推定南城市居住者の移動状況

「混雑統計®」©ZENRIN DataComCO., LTD

課題②:市内外の移動ニーズに応じた交通網の見直し

- 市内外の移動ニーズと、運行便数との間に乖離がみられる状況となっており、移動ニーズに応じた路線バス、Nバスの運用見直しなどの検討が必要です。
- 移動者数に対して相対的に便数が少ない区間と多い区間の路線バス・Nバスの利用者数を比べてみると、移動ニーズが少なくても、便数が多い地域間の利用者数が多くなっており、移動ニーズに応じてサービス向上を図ることで、公共交通の利用が促進される余地が大いにあることがうかがえます。
- なお、見直しにあたっては、小中高生の登下校時の便や、高齢者の通院目的での外出が多い9時前後の便など、確保・維持すべき路線バス・Nバスの便もあることに留意が必要です。

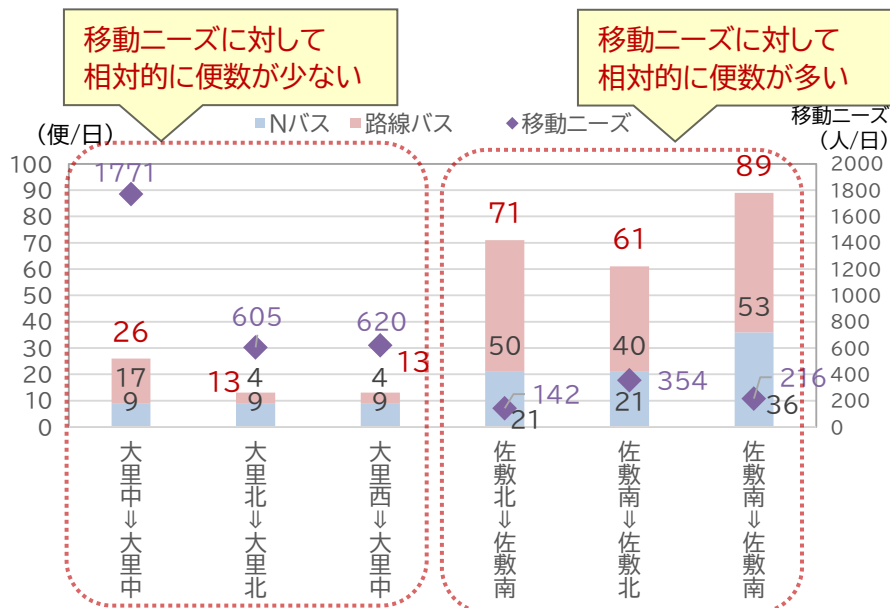


図 地域間の運行便数と移動ニーズとの関係

出典: 移動ニーズは市民アンケートより推計

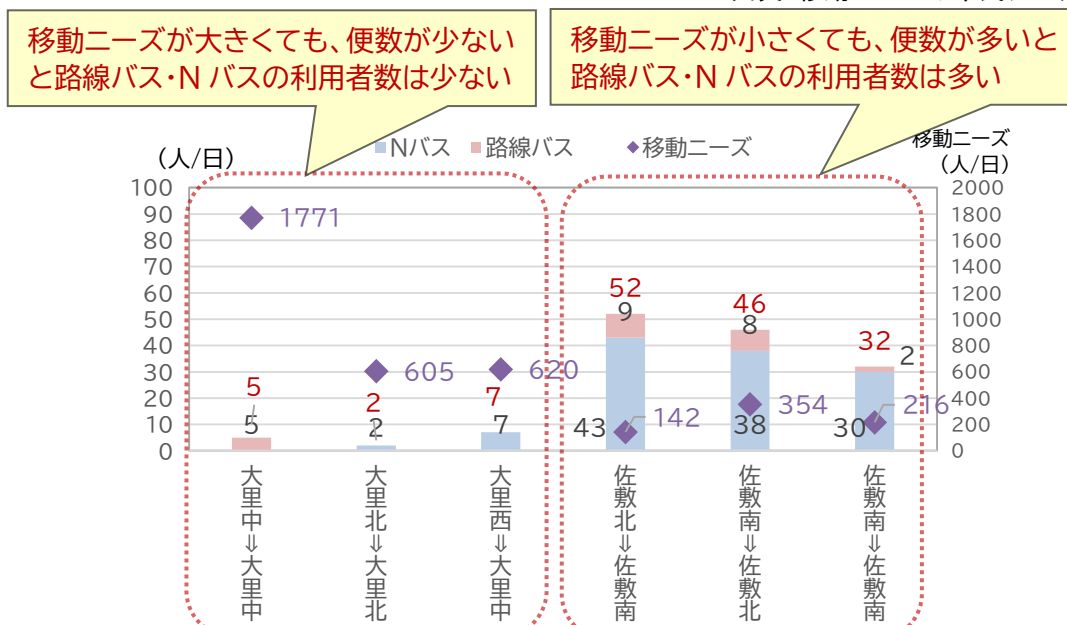


図 地域間の路線バス・Nバスの利用者数と移動ニーズとの関係

出典: 利用者数は乗降調査結果、移動ニーズは市民アンケートより推計

課題③:移動制約者への交通手段の提供

- 本計画では、運転免許証を返納した高齢者や、車を運転できない小中高生、レンタカーを利用できない観光客などを移動制約者と捉え、これらの方への交通手段の提供が課題の一つであると認識しています。
- 久高島を除く市内全域は、デマンド交通「おでかけなんじい」がドア to ドアで運行しており、公共交通で面的にカバーしていますが、路線バスの減便もあり、移動が不便な時間帯や、直接結ばれていないため、市役所から那覇空港や、糸満方面など乗り継ぎや迂回を要する移動もあります。
- おでかけなんじいは、多くの高齢者に利用されており、75歳以上の運賃割引を行っていることもあり、利用者の約8割を75歳以上が占めています。
- Nバスでは、2023(令和5)年6月から2026(令和8)年3月までの約3か年、「Nバス運賃支援事業」により、65歳以上等の方を実質無料化とし、その結果、利用者数が大きく増加しました。
- おでかけなんじい及びNバスにおいては、高齢者の外出を促進し、健康と福祉の増進を図るため、高齢者に配慮した取組実施が求められます。
- 令和1年の公共交通の再編により、高校生の登校時の路線バス利用割合は増加し、新たに導入されたNバスも10%ほど利用されていますが、「クルマで送迎」は、増加しており、引き続き、小学生、中学生も含めた小中高生の登下校の利便性確保を図る必要があります。

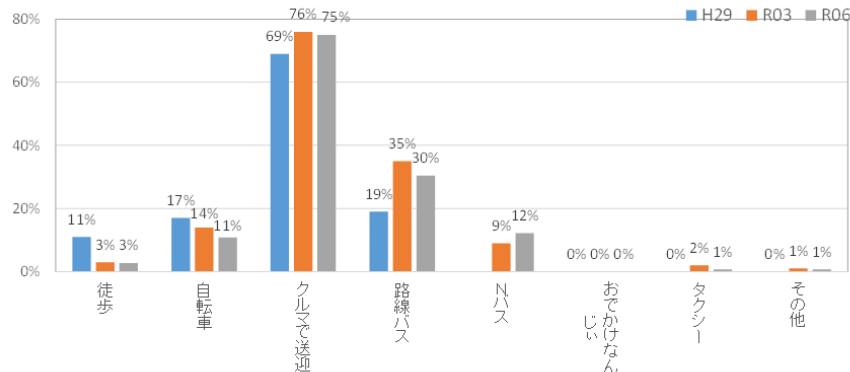


図 高校生の登校手段の推移(複数回答)

出典:小中高生アンケート

- 観光客についてみると、高齢者や若い世代(Z世代)では、観光地で運転を好まない又は運転免許証を持っていない人も増えてきています。レンタカーを利用しない観光客の南城市までのアクセス及び南城市内での回遊の支援も求められます。人流データによると、推定県外居住者の市内の来訪先は、斎場御嶽がある知念地域と、おきなわワールドがある玉城地域に集中しています。

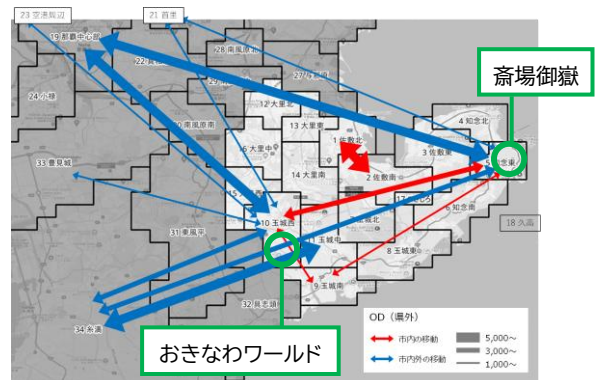


図 推定県外居住者の移動状況

「混雑統計®」©ZENRIN DataComCO., LTD

課題④：地域交通の利用促進に向けた利便性向上

- 運行頻度やルートの評価をみると、乗降のしやすさや乗り心地、運転手の対応等のサービスに関しては高い評価を得ています。
- 一方で、路線バス、Nバスは、運行頻度やルート、おでかけなんじいは、運行時間帯の評価が低くなっています。運転手不足の中、増便や運行時間帯の拡大は対応が困難ですが、乗継ダイヤの調整や、運行間隔の調整等の工夫により、便数の少なさをカバーする必要があります。

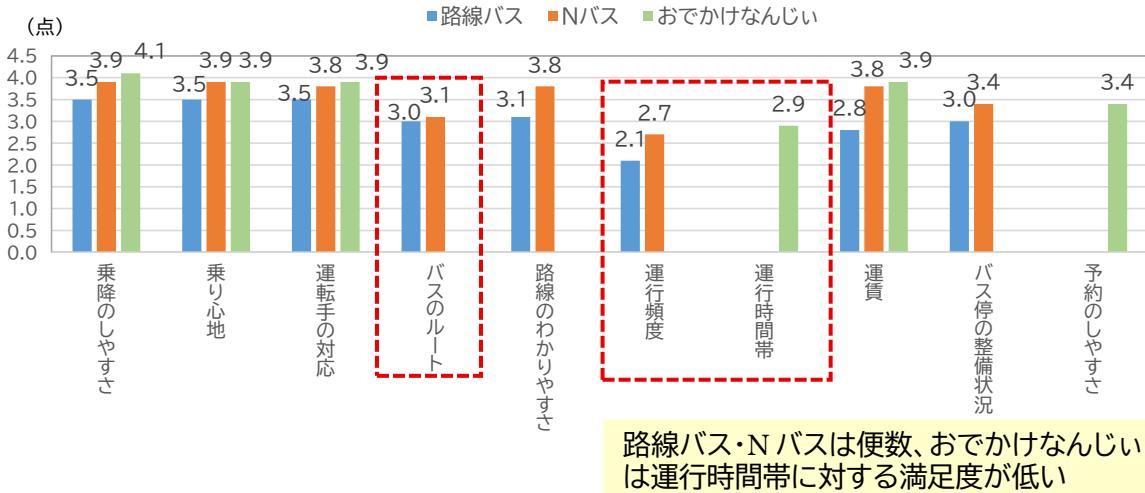


図 路線バス・Nバスおでかけなんじいの満足度(5点満点)

出典：市民アンケート

- 路線バスの減便による影響として、利用者(月に2～3回以上路線バスを利用)の79%が「市外への外出が不便になった」、39%が「路線バスの減便により外出回数が減った」と回答、「特に影響はなし」は8%に過ぎず、利用者に大きな影響が生じています。
- 回答者全体でも「特に影響はない」は53%と半分にとどまり、29%が「市外への外出が不便になった」と回答するなど、半数に影響が生じています。
- 減便にあたっては、沿線住民への影響を緩和するため、国や県も含めた関係者との事前調整や、他系統の路線バス及びNバスによるリカバリー策の検討などの対応が求められます。

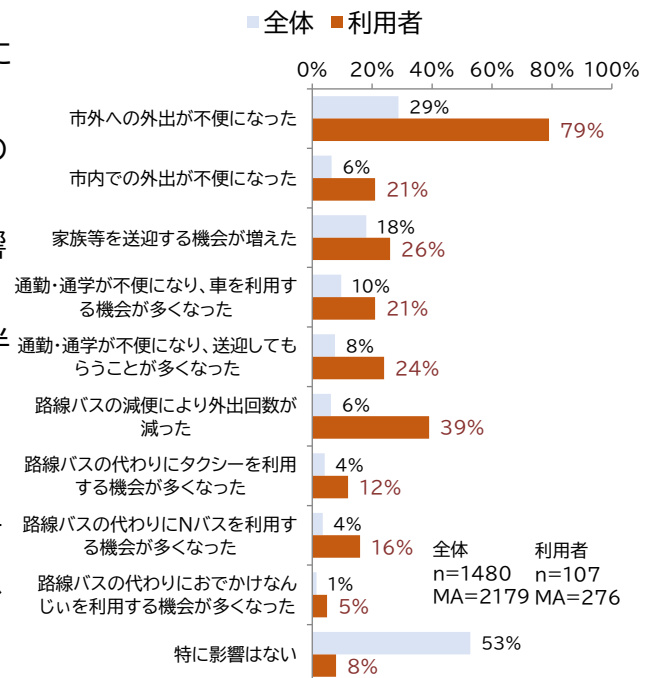


図 路線バス減便による影響

出典：市民アンケート

課題⑤：将来を見据えた地域交通の確保・維持・改善

- 運転手不足による減便への対応が求められる一方で、つきしろ地区や市役所周辺の中核地での開発により新たな需要が創出されます。つきしろ地区においては、地区内への N バスの乗り入れ等が、中核地では市役所バス停に集約している路線バス・N バスの活用等による開発需要への対応が考えられます。
- 開発を契機に、民間施設と調整することが実施しやすい環境になり、民間施設の送迎サービスと N バス等を組み合わせたアクセス確保策の検討など輸送資源の活用促進が求められます。
- 開発に先行して公共交通手段によるアクセスを確保することで、開発時の渋滞を抑制し、渋滞によるバスの遅延がバス離れを加速するといった悪循環に陥らないように事前の対策も必要です。
- さらには、南部東道路の全面供用も控えており、那覇空港や那覇市までのアクセス向上による公共交通への転換を促すことで、持続可能性を高めることも求められます。
- 今後、高齢者が増加することで、公共交通の潜在的な利用者が増えることから、ニーズへの対応、ニーズを取り込むことでの公共交通の持続可能性を高める必要があります。
- 開発による需要増加や、道路整備によるアクセス向上、高齢者の増加に伴う潜在的な公共交通利用者の増加などの機会を活かしながら、今後を見据えた地域交通の確保・維持・改善が必要です。

7.2 基本理念と方針

総合計画における将来像
「海と緑と光あふれる南
城市」

「基本理念

市民や観光客の移動を支え、促すことで南城市の
活性化を図り、さらに、新しいまちづくりを先導す
る自立・持続可能な公共交通体系を構築します。

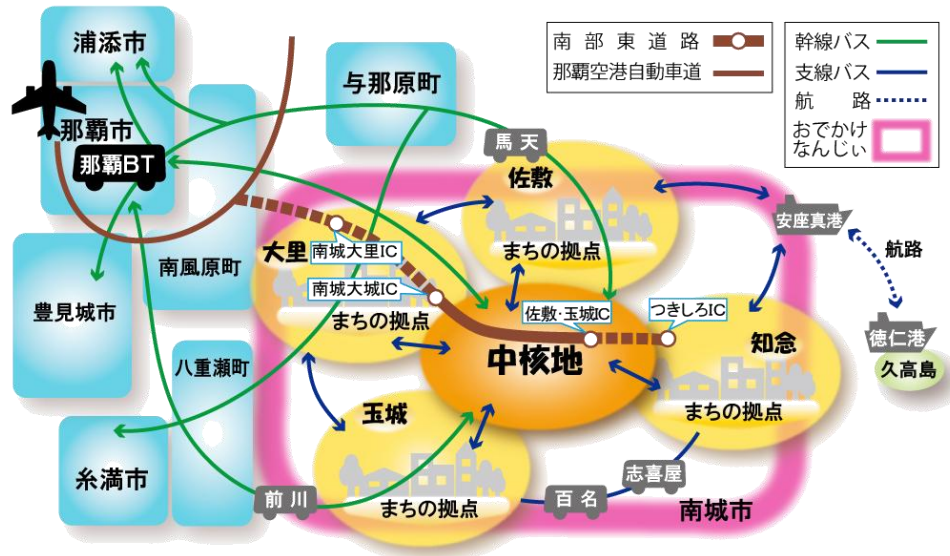
取組推進の考え方

- 共創による公共交通の利活用
教育、福祉、観光など様々な分野と共創により取組を推進
- まちのみんなで公共交通を守り、育てていく
地域(住民・利用者・企業等)が主体的にかかわる取組を推進

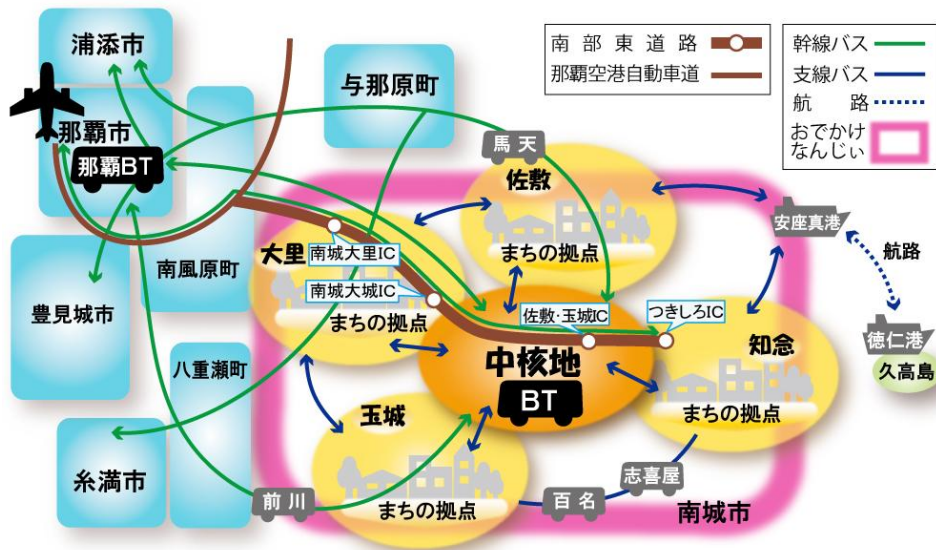
【課題】	【基本方針】
観点①公共交通軸と拠点の充実・保障	
<p><u>課題①</u> 基幹軸・交通拠点の形成・強化</p> <hr/> <p><u>課題②</u> 市内外の移動ニーズに応じた交 通網の見直し</p>	<p><u>基本方針①</u> 拠点の機能強化とともに、拠点間 の連絡を強化する。</p>
観点②交通空白における移動の確保	
<p><u>課題③</u> 移動制約者への交通手段の提供</p>	<p><u>基本方針②</u> 移動制約者が安心して移動できる 環境を整える。</p>
観点③持続可能性・実現可能性の確保	
<p><u>課題④</u> 地域交通の利用促進に向けた利 便性向上</p> <hr/> <p><u>課題⑤</u> 将来を見据えた地域交通の確保・ 維持・改善</p>	<p><u>基本方針③</u> 将来を見据えながら、地域ととも に利活用を通じて公共交通を支えて いく</p>

現状と将来の公共交通ネットワークイメージを以下に示す。幹線バス（路線バス）が市内と市外の移動を担い、支線バス（Nバス）が市内の移動を担う役割分担のもと、南部東道路の供用による、市外へのアクセス強化と、開発地への市内でのアクセス利便性の向上を図る。

- | | |
|---------------------|--|
| 現状
(2026) | <ul style="list-style-type: none"> ●南部東道路の全面開通を見据え、IC 周辺の新しい拠点である中核地を核に、公共交通網を形成 ●再編により中核地と那覇市等の市外を路線バスで連絡。 ●市内は中核地と拠点間を結ぶ N バスで連絡。 ●路線バス、N バスでの対応が難しいエリアの移動は、「おでかけなんじい」が担う。 |
|---------------------|--|



- | | |
|----------------------|--|
| 将来
(2030~) | <ul style="list-style-type: none"> ●IC 周辺の新しい拠点である中核地を核に、公共交通網を形成 ●南部東道路活用し、中核地と那覇空港や市外等を連絡。 ●中核地と那覇市等の市外を路線バスで連絡。 ●市内は中核地と拠点間を結ぶ N バスで連絡。 ●路線バス、N バスでの対応が難しいエリアの移動は、「おでかけなんじい」が担う。 |
|----------------------|--|



7.3 施策メニュー

視点	基本方針	施策メニュー	取組内容
観点① 公共交通軸 と拠点の充 実・保障	基本方針① 拠点の機能強化と ともに、拠点間の連 絡を強化する。	施策①-1 バスターミナル等の交通 結節点の整備	・中核地におけるバスターミナルの整備検討 ・つきしろ地区や大里地区での交通結節点の 整備検討
		施策①-2 那覇空港など市外の交通 結節点との連絡強化	・空港リムジンバスの実証運行の実施 ・那覇市へのアクセス向上策の検討 ・隣接市町村の交通結節点への接続検討
		施策①-3 市内のバス路線網の改善	・移動ニーズに応じた N バスの運行ルート・ ダイヤ等の見直し ・路線バスと N バスの連携 ・拠点間を結ぶ路線の拡充の検討
		施策①-4 交通拠点における 2 次交 通の充実	・シェアサイクル等の導入推進 ・公共駐車場での P&R の推進 ・交通拠点への送迎サービス等の導入促進
		施策①-5 交通拠点における待合環 境の充実	・周辺施設と連携した待合場所の提供 ・地域と連携したバス停周辺の美化・維持 ・バス停の上屋等整備
観点② 交通空白に おける移動 の確保	基本方針② 移動制約者が安心 して移動できる環境 を整える。	施策②-1 おでかけなんじいの継続 運行	・デマンド交通の運行継続
		施策②-2 N バスの継続運行	・N バスの運行継続 ・利用しやすい割引運賃の導入
		施策②-3 航路の継続運行	・航路の運行継続
		施策②-3 交通不便地域における利 便性向上策の検討	・地域による新たな交通サービスの導入可能 性の検討 ・空港リムジンバスの実証運行の実施[再掲]
観点③ 持続可能 性・実現可 能性の確保	基本方針③ 将来を見据えなが ら、地域とともに利 活用を通じて公共交 通を支えていく。	施策③-1 公共交通を利用し、拠点 に人が集まる仕組みづくり	・複合施設との連携 ・つきしろ地区の開発との連携 ・拠点周辺施設と連携した公共交通利活用策 の検討
		施策③-2 公共交通の利便性向上策 の推進	・運賃支払い方法の充実 ・情報発信の充実 ・乗り継ぎ割引等利用しやすい運賃制度の導 入検討
		施策③-3 モビリティ・マネジメント 等の利用促進策の実施等	・交通環境学習の充実 ・乗り方教室やイベントによる公共交通の利 用機会づくり
		施策③-4 地域の伴走による公共交 通の維持	・産官学民の参画による地域公共交通計画 の推進体制の構築 ・他分野との共創による公共交通の利活用 の推進

8 南城市地域公共交通会議(法定協議会)に係る支援

南城市地域公共交通計画策定に向け、南城市地域公共交通会議の運営支援を行った。

回数	実施時期	議題
第1回	令和7年 4月14日	●令和6年度のNバス・おでかけなんじいの利用状況について ●令和6年度、令和7年度の取組について ●交通会議の令和6年度決算、令和7年度予算について
第2回	令和7年 8月5日	●計画策定の進め方について ●地域と公共交通の現状について
第3回	令和7年 11月4日	●路線バスの運行見直しについて ※書面開催
第4回	令和7年 11月28日	●おでかけなんじいの運行区域変更計画について ●南城市地域公共交通計画骨子(案)について
第5回	令和8年 1月29日	●南城市地域公共交通計画(素案)について
第6回	令和8年 3月19日	●パブリックコメント結果について ●南城市地域公共交通計画(案)について

※グレーの着色の会議は本事業の対象外

9 今後の進め方について

第5回会議で素案を提示、2月にパブリックコメントを実施し、3月の第6回会議で南城市地域公共交通計画を策定する予定である。

なお、2月にはパブリックコメントと並行して、交通事業者との座談会を開催し、施策の具体的な内容や、次年度の取組について調整する予定である。